

認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド  
伴走型・市民活動持続化支援枠助成事業報告書

※本報告書は収支決算詳細を除き、北海道 NPO ファンドホームページに公開されます。

記載日：2022 年 3 月 12 日

## 1. 実施した組織基盤強化プロジェクトについて

プロジェクト名	道内での読書環境の整備支援を継続して行うための組織基盤強化事業
団体名	一般社団法人北海道ブックシェアリング
助成額	319,000 円
実施時期	2021 年 12 月～2022 年 3 月

## 2. 実施報告

### (1) 実施項目について

書籍『参加型評価-改善と変革のための評価の実践』（源由理子著／晃洋書房）を参考に、参加型評価の手法を使ってアンケート評価を実施した。

#### ○目的

- ・事業の現状を把握する
- ・ボランティアスタッフの活動への参加意識を高める
- ・次年度計画を作成する際に参考にできる報告書の作成

#### ○評価参加者

- ・評価専門員

橋本正彦氏（Community Hub 江別港代表）

- ・評価参加者

山崎隆さん（本会ボランティアスタッフ）

金山雅史さん（本会ボランティアスタッフ）

神崎かをるさん（本会ボランティアスタッフ）

眞木早苗さん（本会ボランティアスタッフ）

#### ○実施内容

- ・評価専門員と評価参加者とともにアンケート作成（打合せ、検討会実施）
- ・アンケート実施（アンケート結果については、資料『アンケート実施報告書』参照）
- ・アンケート結果報告書作成
- ・アンケート結果報告会実施

### (2) 実施経過(何年何月に何を行ったという形でご記入ください)

(活動の様子が分かる写真を、2～3 枚別添えしてください)

2021 年

12 月

評価専門員の選出

評価概要決定

2022 年

1 月

評価参加者の選出

アンケート（仮）作成  
 アンケート検討会実施（実施概要については資料2参照）  
 2月  
 アンケート実施



3月  
 アンケート集計  
 報告書作成  
 報告会実施



**(3) このプロジェクトにより、組織にどのような変化がありましたか?(スタッフには～、役員には～という形でご記載ください)**

本事業実施の背景には、新型コロナウイルスの影響による、これまでにはなかったほどの寄贈本の増加と、新規ボランティアの増加がある。このことにより、組織の基盤となっていたブックシェアリング事業が効果的に展開できない状況が続いており、体制を見直す必要があった。

本会は、団体発足以来、組織体制や運営方法について大きく見直す機会をつくれずにいたため、本事業が初めての組織基盤を見つめなおす機会となった。本事業では、団体の活動基盤となっているブックシェアリング事業に焦点を当て、アンケートを実施して活動を評価することで、現在の課題を整理し、改善のための活動を計画できるようにすることで、組織基盤強化につなげようと実施したものである。評価については、参加型評価の手法を用いたことで、ボランティアスタッフが事業に参画することができ、より多くのスタッフが団体運営を意識する機会となった。

本事業によって大きく変わったのは、ボランティアスタッフの意識である。これまでは、その日の作業やプロジェクト単位での参加意識だったが、本事業を通して、より団体の運営や先のことを考えた上で参画する・参画できるという意識に変化した。アンケート結果の報告会では、ボランティアスタッフから「実はずっとよくわからなくて困っていた」という現状の課題や、それに対する改善案について積極的に意見交換が行われ、能動的な動きが見受けられた。事業終了後に、気づきや感想が寄せられたので紹介する。

○事業やアンケートに参加した感想・コメントなど  
 評価専門員

長く活動をしている団体では、どうしても慣習や暗黙の了解が増えてきて、役員、事務局、ボランティアスタッフそれぞれの想いがかみ合わなくなってくるものです。今回のようなお互いの想いを確かめようという試みは、そうした課題を防止するためにとても有意義なことと思いました。

アンケート結果を見て、なんとなく感じていたことが裏付けられたり、意外に思ったりしたことがあったかと思えます。このアンケートの一連のプロセスが、お互いの声を聴きながら、より良く活動を続けていく一歩につながるのではないかと期待しています。

評価参加者として事業に参画したボランティアスタッフ

- ・各ボランティアが様々な動機でそれぞれの思いで参加してきているのだろうと、改めて感じた。アンケートを通じてその辺りが見えてきて面白かった
- ・団体のスタート時と比べてイベントを含めた活動の幅が随分広がっているのを感じていて、ボランティアメンバーがどこに関心を抱き意義を見出して参加しているのかが分かり、今後のボランティア募集などの参考になると感じた

アンケートに回答したボランティアスタッフからの感想

- ・有償無償での提供冊数が想像以上に多く、書店がどんどん減っている中また本の価格が上がっている中、利用者にと

ってブックシェアリングは有難い存在なのだろうとつくづく思った。もっと多くの人に活動を知ってもらって利用していただきたい

・団体内の情報共有についての設問を見て、ボランティアスタッフ間の連絡方法があってもいいのではないかと思った。メーリングリストは一斉通知には有効便利な手段だけれど個々人間では情報交換ができない。メールアドレスの公開を了承した人たちにはそのメンバー間でのみでお互い連絡できるようにしてもいいのではと考えている

代表理事 荒井宏明

今回のアンケート調査を通じて今後の活動に大きな示唆を受け取ることができました。13年にわたって慣習的に見過ごされていた部分を見直す良い契機となりました。この結果を省みて、ボランティアスタッフの方々が安心して楽しみながら活動できる仕組みと環境づくりを進めてまいります。

**(4) 収支決算**

※収入の部「当助成金収入（助成希望額）」と、1.助成希望額は一致させてください。行は適宜追加してください

収入の部	費目	金額（円）	備考
	当助成金収入	319,000	
	寄付金	9,385	団体寄付金
	収入の部 合計	328,385	①
当助成金 充当支出	費目	金額（円）	備考
	組織診断専門員謝礼(支援伴走者)	48,000	12,000円×4日
	事務局人件費	255,000	8,500円×30日
当助成金 (このプロ グラムで集 めた寄付 金)を充て る費目を記 載 ※原則公開	評価参加者	12,000	図書カード 3,000円×4名
	会場費	0	本会事務所を使用した
	小計	315,000	②
その他支出	費目	金額（円）	備考
	消耗品	6,445	紙、インク、事務用品
	交通費	1900	駐車場代、公共交通機関
	郵送費	5,040	切手等、送料
	小計	13,385	③
	支出の部 合計	328,385	②+③=①

**(5) 事業をすることで得られたもの**

- ・事業の現状を整理し、課題を把握し、ボランティアスタッフと共有する機会となった。次年度の活動を展開する際には、課題をわかってもらった上で活動を展開していけるので、より多くのスタッフの参画が期待できる
- ・ボランティアスタッフの意識が、活動規模から団体運営に少し広がった
- ・今後の活動を計画する際の参考資料

以上

【宛先】認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド 北の NPO 基金事務局  
メール npofund@npo-hokkaido.org